

第111回
定時株主総会

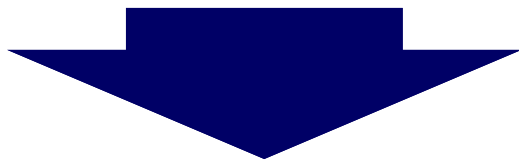
2017年 6月29日

宇部興産株式会社

2016年度 経済情勢

世界経済：

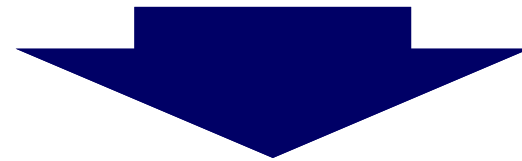
- ・米国：回復が続く
- ・欧州：緩やかな回復基調
- ・アジア：中国で景気減速感が強まる



力強さを欠きながらも
緩やかな回復が続く

国内経済：

- ・一部に改善の遅れ



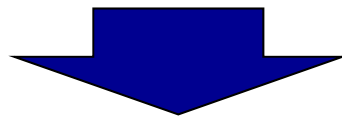
緩やかな回復基調

当社グループの取り組み

2016年度からの3ヶ年中期経営計画
「Change & Challenge 2018」を始動

○ 基本方針

- ・持続的成長を可能にする経営基盤の強化
- ・資源・エネルギー・地球環境問題への対応と貢献



● 各部門の収益力向上を推進

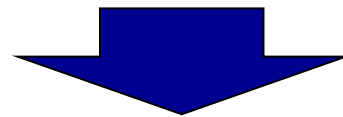
● 各事業課題の解決に向け取り組む

2016年度 当社グループ業績

○全般的に円高の影響を受ける

○化学部門：一部製品の原料価格高や国内アンモニア工場の定期修理実施によるコスト増加 等

○建設資材部門：セメント国内需要減少や輸出環境悪化等の影響



●連結営業利益：減益

●大きな特別損失の計上なし

●親会社株主に帰属する当期純利益：増益

連結売上高

6,165 億円

前期比：251億円減

(億円)

7,000

6,000

5,000

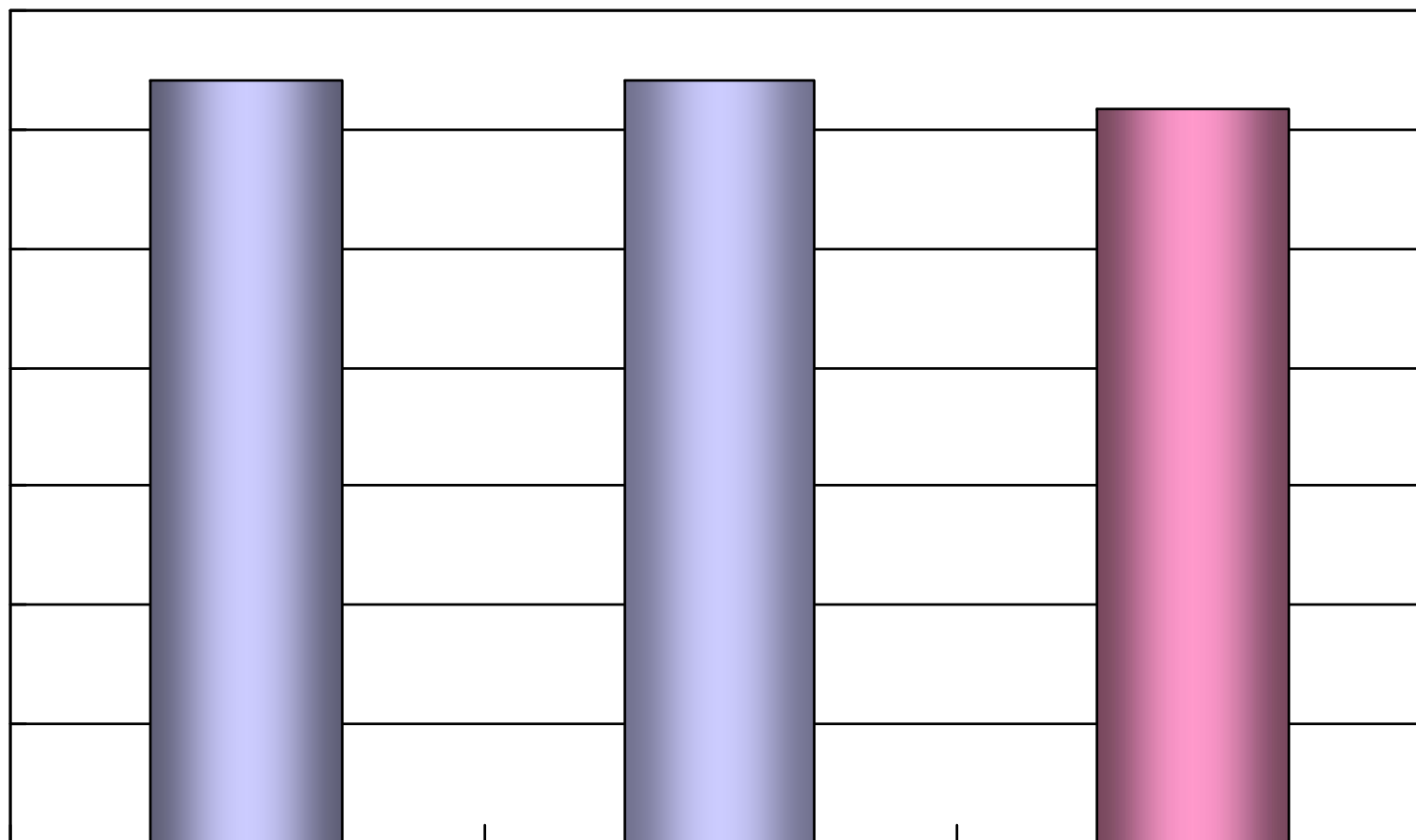
4,000

3,000

2,000

1,000

0



2014

2015

2016 (年度)

連結営業利益

349億円

前期比：64億円減

(億円)

500

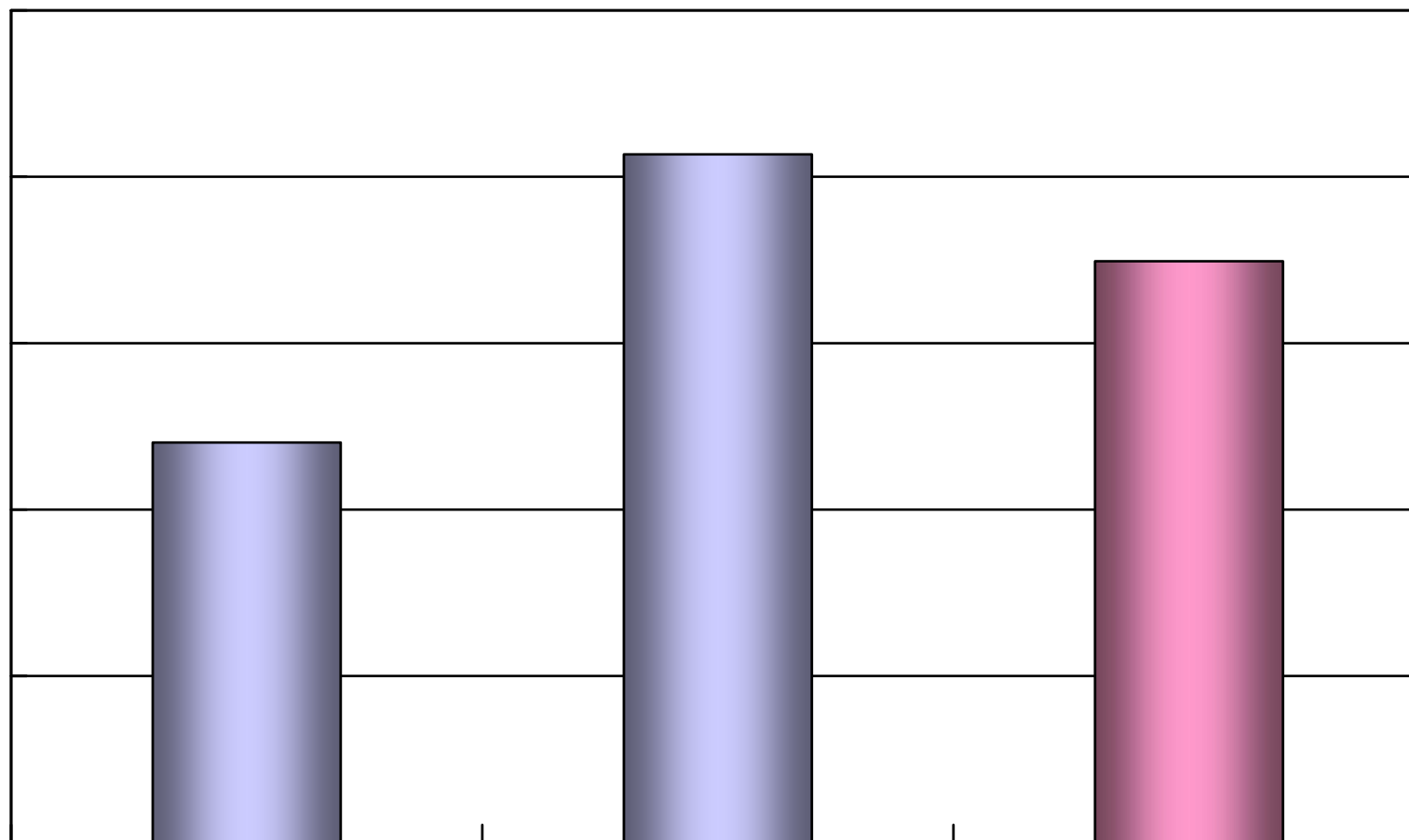
400

300

200

100

0



2014

2015

2016 (年度)

連結経常利益

333億円

前期比：62億円減

(億円)

500

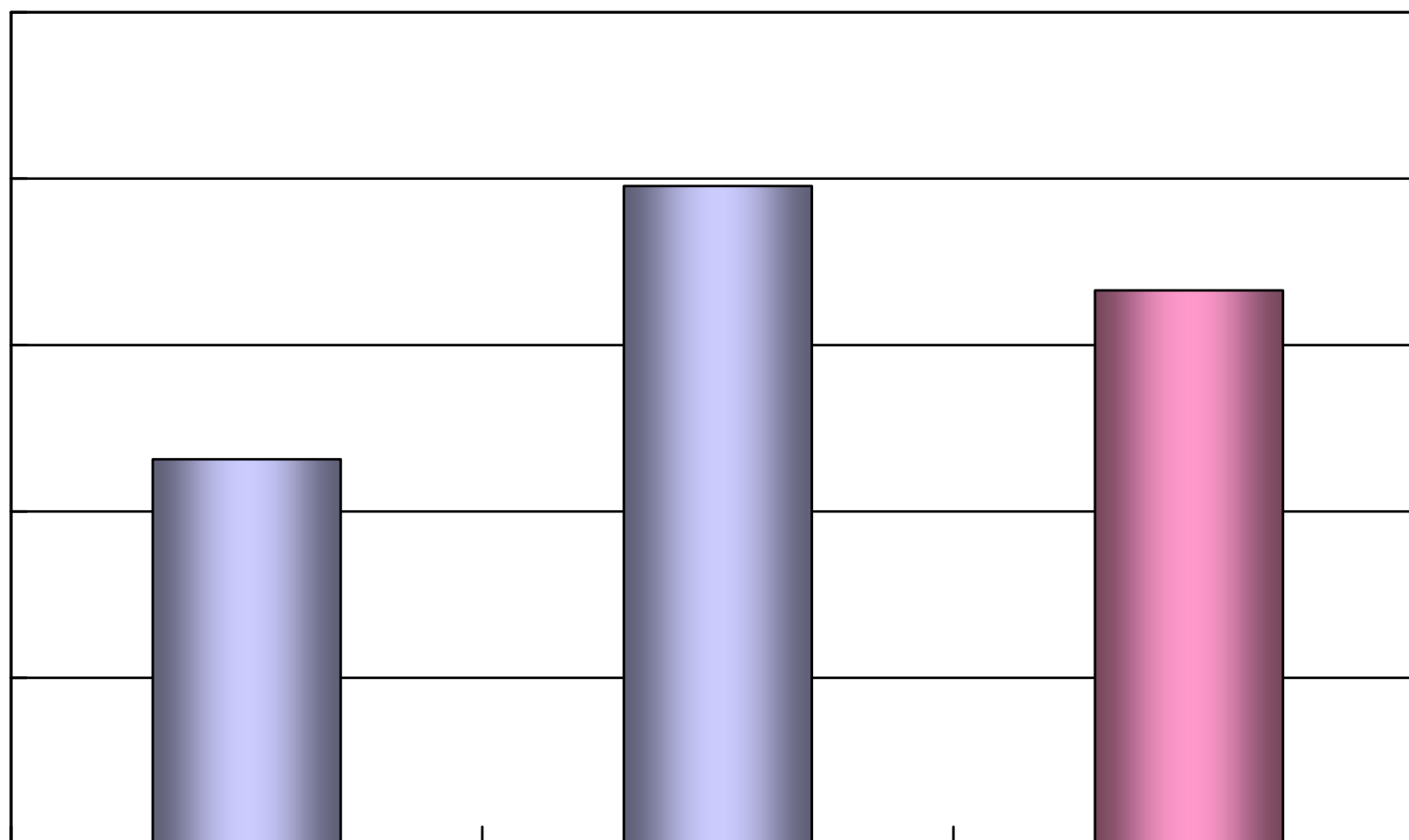
400

300

200

100

0



2014

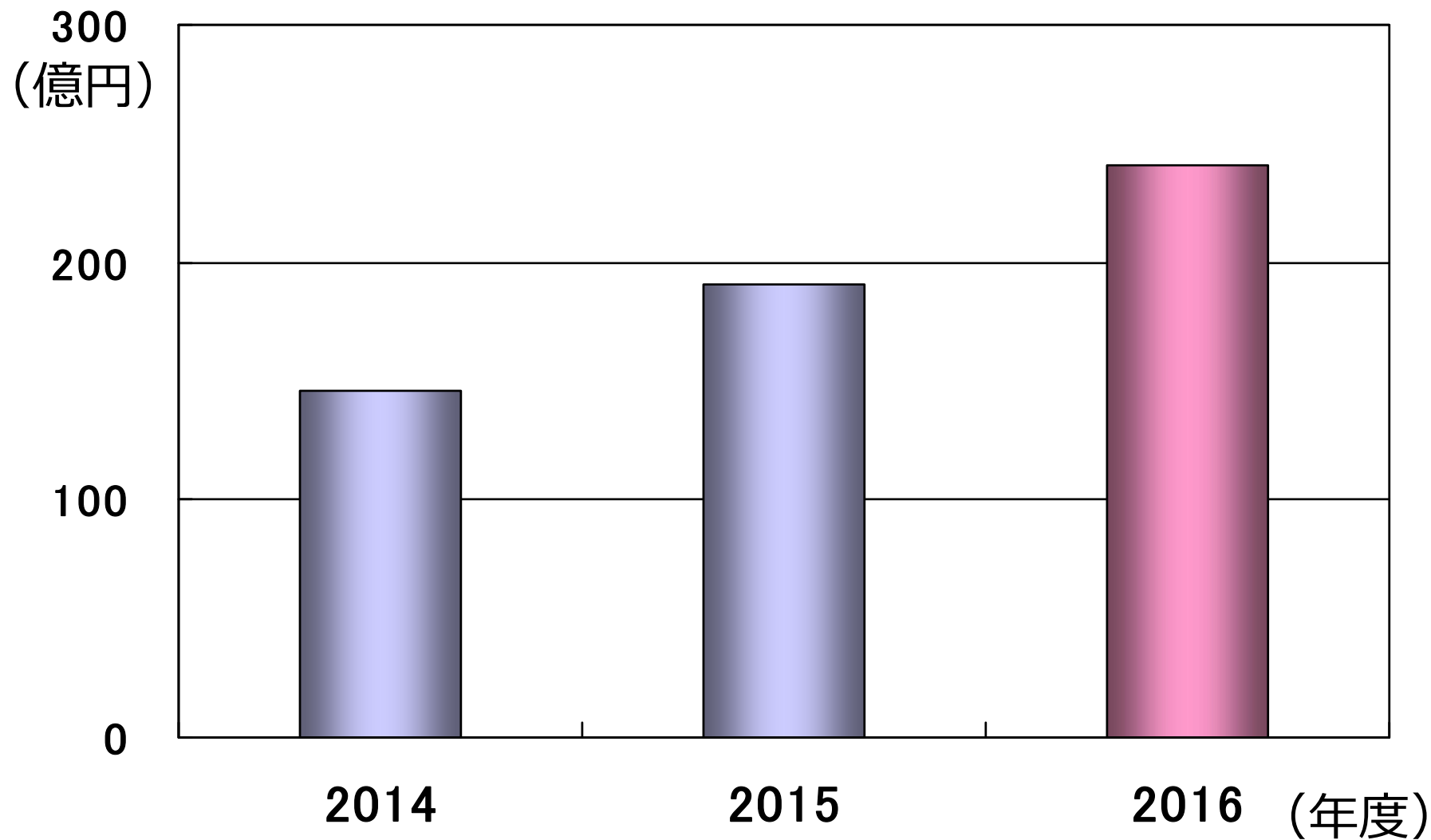
2015

2016 (年度)

親会社株主に帰属する 連結当期純利益

241億円

前期比：50億円増



売上高（単独）

2,779億円

前期比：238億円減

(億円)

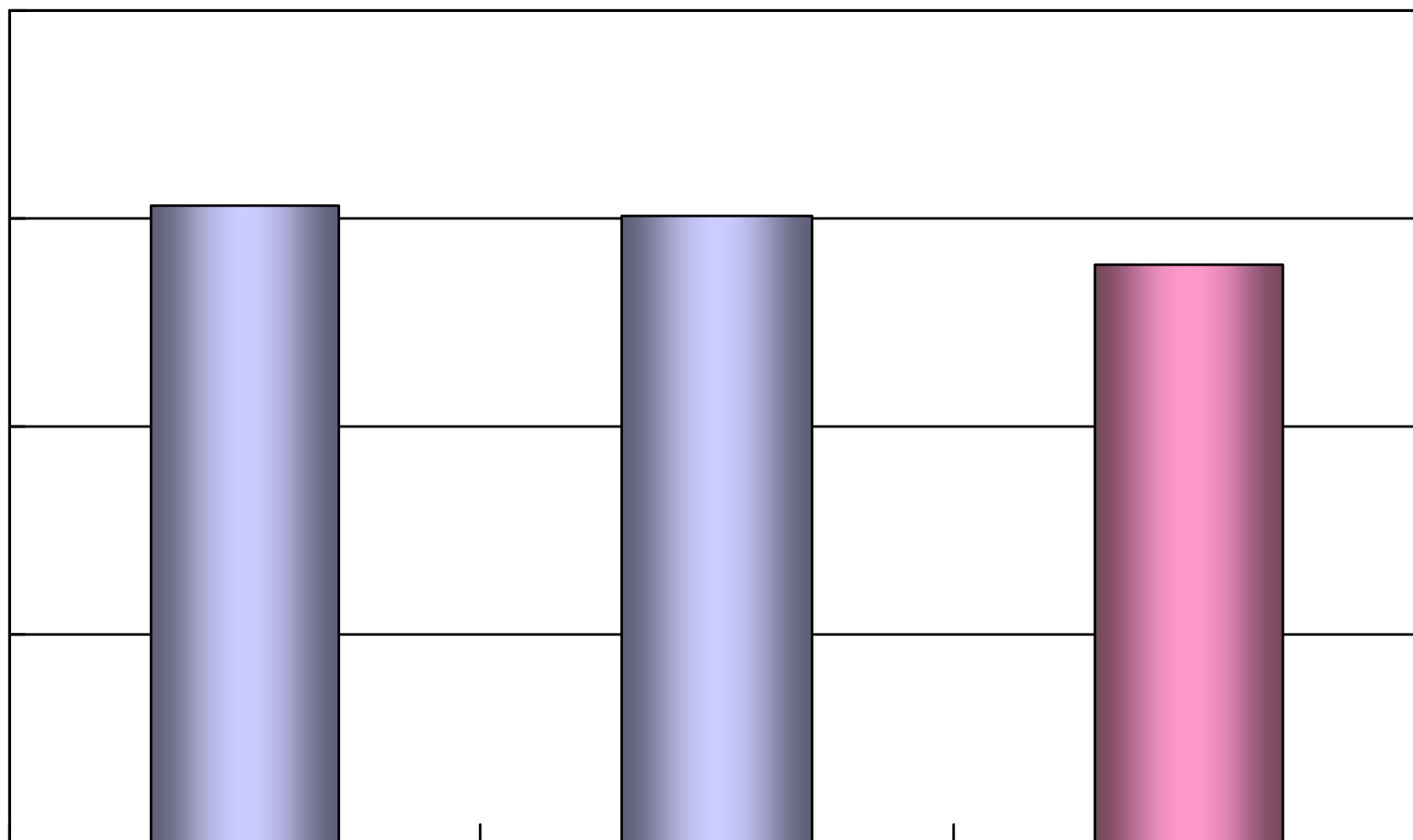
4,000

3,000

2,000

1,000

0



2014

2015

2016 (年度)

営業利益 (单独)

143億円

前期比：115億円減

(億円)

300

250

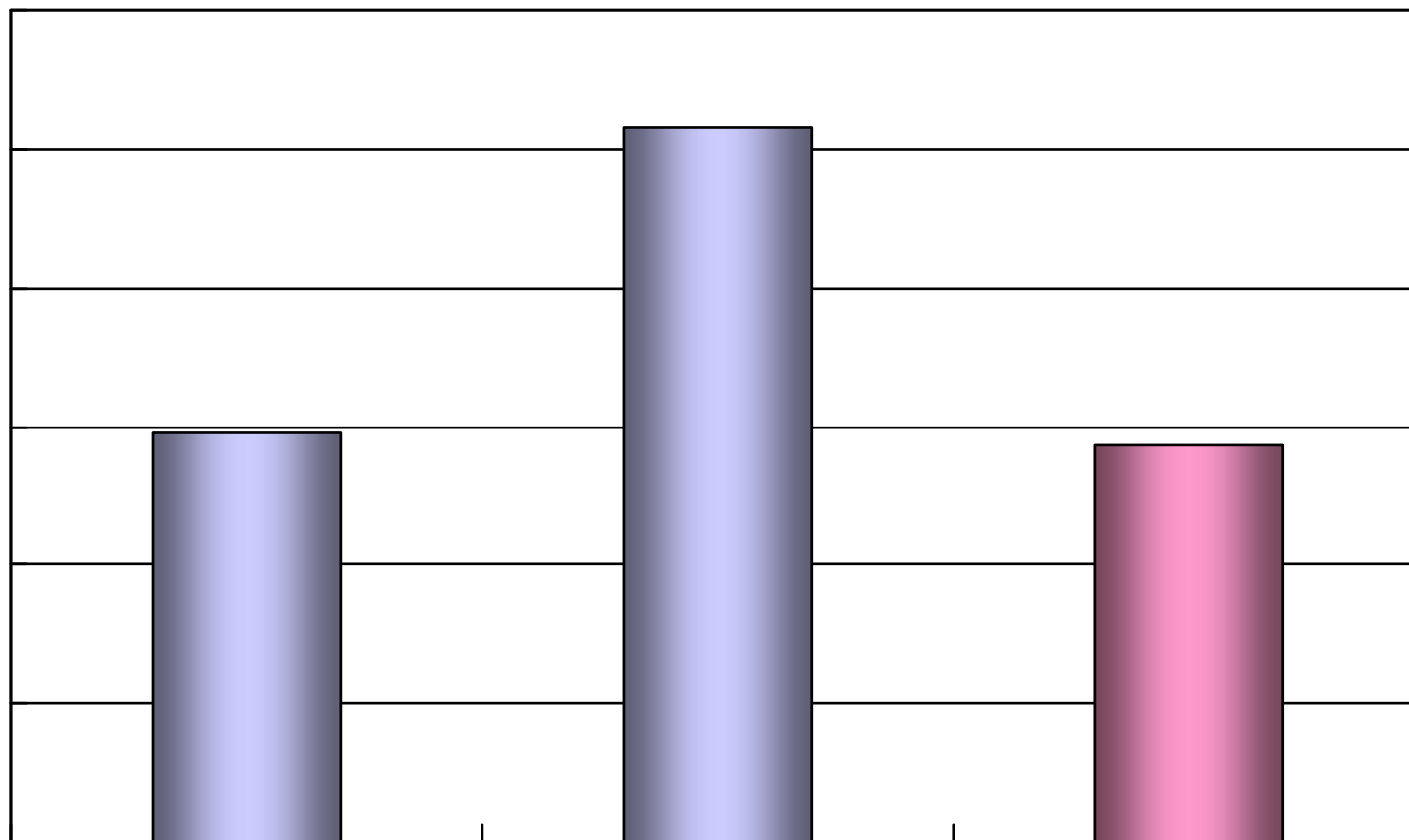
200

150

100

50

0



2014

2015

2016 (年度)

經常利益 (单独)

168億円

前期比：108億円減

(億円)

300

250

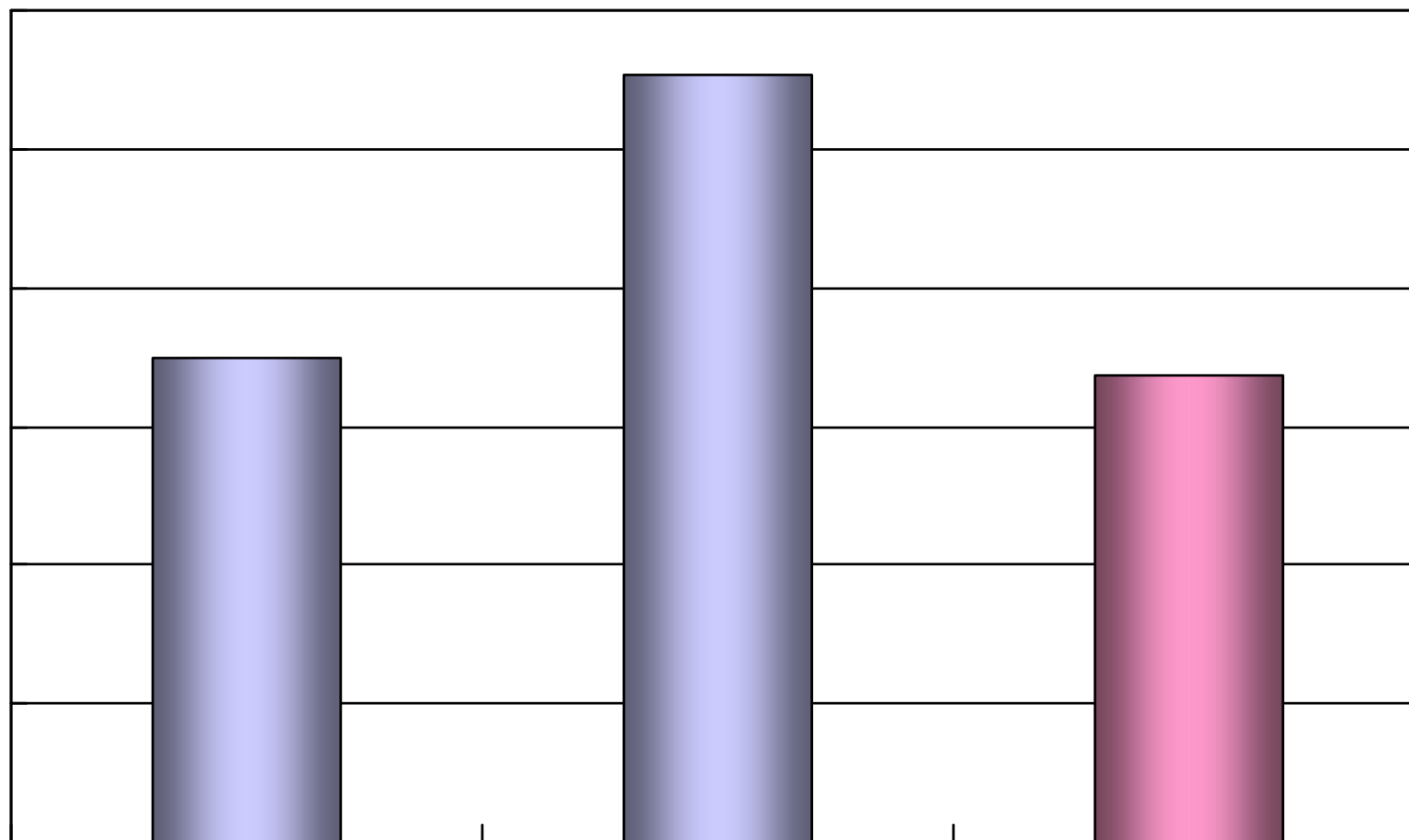
200

150

100

50

0



2014

2015

2016 (年度)

当期純利益 (单独)

139億円

前期比：22億円増

(億円)

150

125

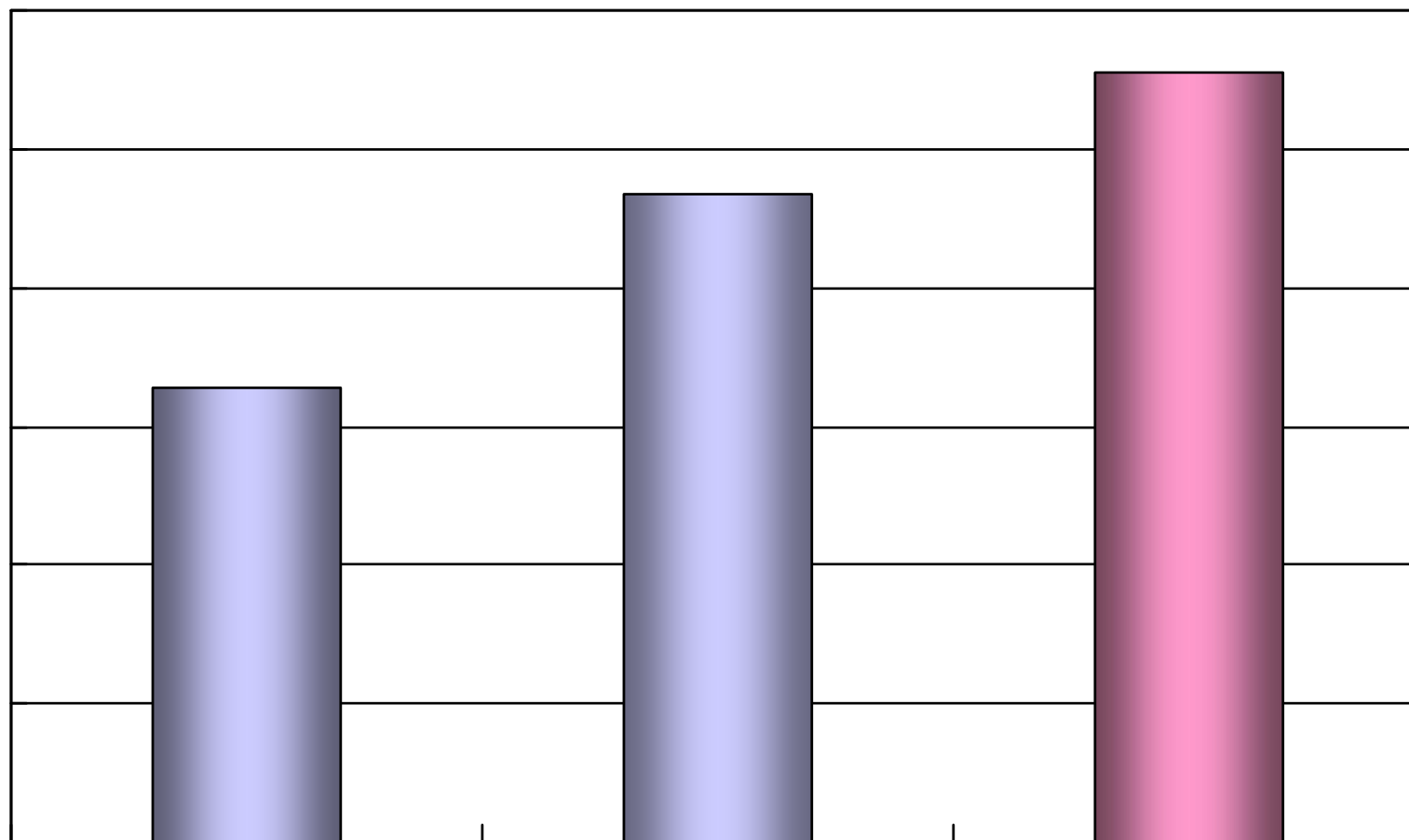
100

75

50

25

0



2014

2015

2016 (年度)

化学部門

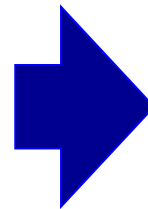
【主要事業内容】

ナイロン樹脂、カプロラクタム（ナイロン原料）、工業薬品、ポリブタジエン（合成ゴム）、電池材料、ファインケミカル、ポリイミド、機能品等の製造・販売

化学部門



ナイロン樹脂



食品包装フィルム
用途を中心に堅調

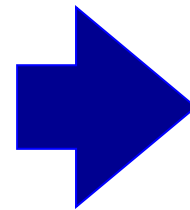
原料価格上昇の
影響を受ける

化学部門



カプロラクタム
(ナイロン原料)

- 中国での供給能力過多の状況が続く



市況は回復傾向で
推移

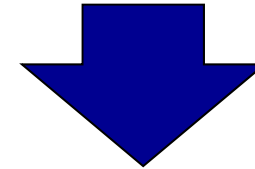
海外ではアンモニア等
副原料の価格低下も
寄与

化学部門



アンモニア製品

- ・工場の定期修理を実施

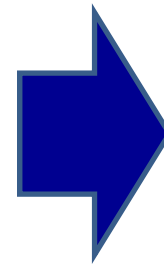


出荷は低調

化学部門



ポリブタジエン
(合成ゴム)



エコタイヤ用途
を中心に出荷
は概ね堅調

原料価格上昇の
影響を受ける

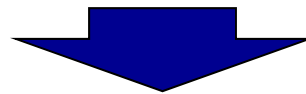
化学部門



セパレータ



電解液



エコカー等車載用途で出荷は伸長

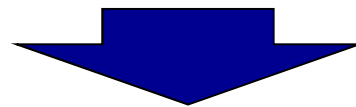
化学部門



ポリイミドフィルム



ファインケミカル製品



出荷は概ね堅調

化学部門

前期比：83億円減

連結売上高 2,583 億円

前期比：24億円減

連結営業利益 96 億円

医薬部門

【主要事業内容】

医薬品（原体・中間体）の製造・販売

医薬部門

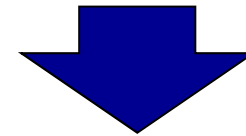


自社医薬品

血圧降下剤

抗アレルギー剤

抗血小板剤



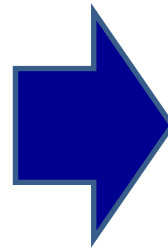
原体出荷は伸長

医薬部門



【第四医薬品製造設備】

受託医薬品
原体・中間体



出荷は概ね堅調

医薬部門

前期比：16億円増

連結売上高 109億円

前期比：13億円増

連結営業利益 24億円

建設資材部門

【主要事業内容】

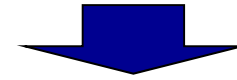
セメント、生コン、石灰石、建材関連製品、カルシア・マグネシア、機能性無機材料等の製造・販売

建設資材部門



セメント・生コン製品

国内出荷



需要減少の影響
を受ける

セメント輸出



出荷は堅調

市況は軟化傾向で
推移

建設資材部門

カルシア

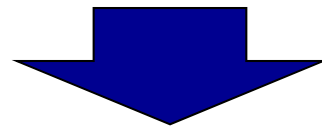


【生石灰】

マグネシア



【マグネシアクリンカー】



出荷は概ね堅調

建設資材部門

前期比：101億円減

連結売上高 2,272億円

前期比：35億円減

連結営業利益 162億円

機械部門

【主要事業内容】

成形機、産業機械（運搬機、粉碎・破砕機）、橋梁・鉄構、製鋼品等の製造・販売

機械部門

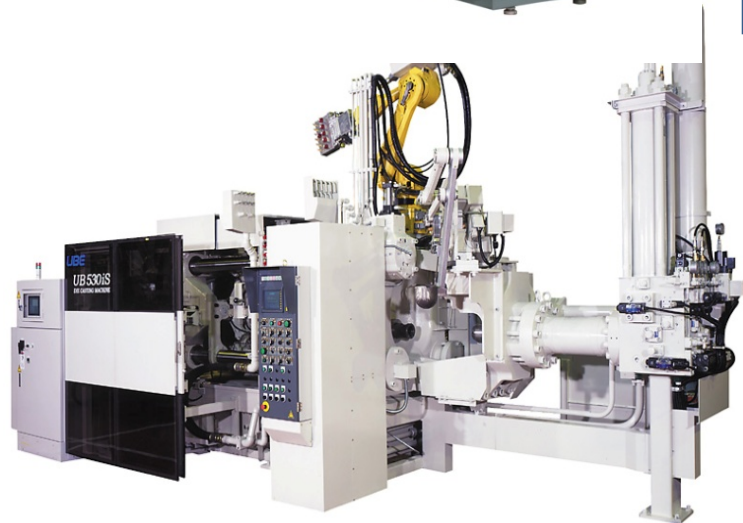
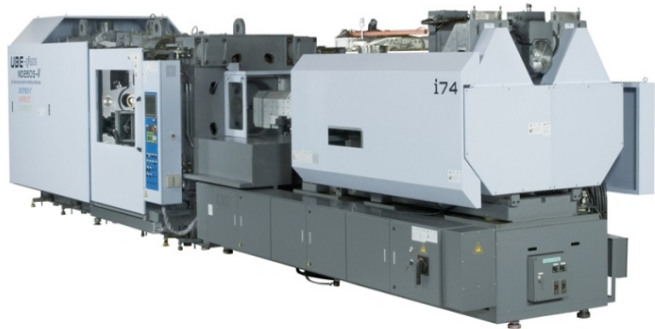
産業機械
(豎型ミル、運搬機 等)



国内、輸出ともに
出荷は低調

機械部門

成形機



国内の出荷は堅調

輸出は為替影響もあり低調

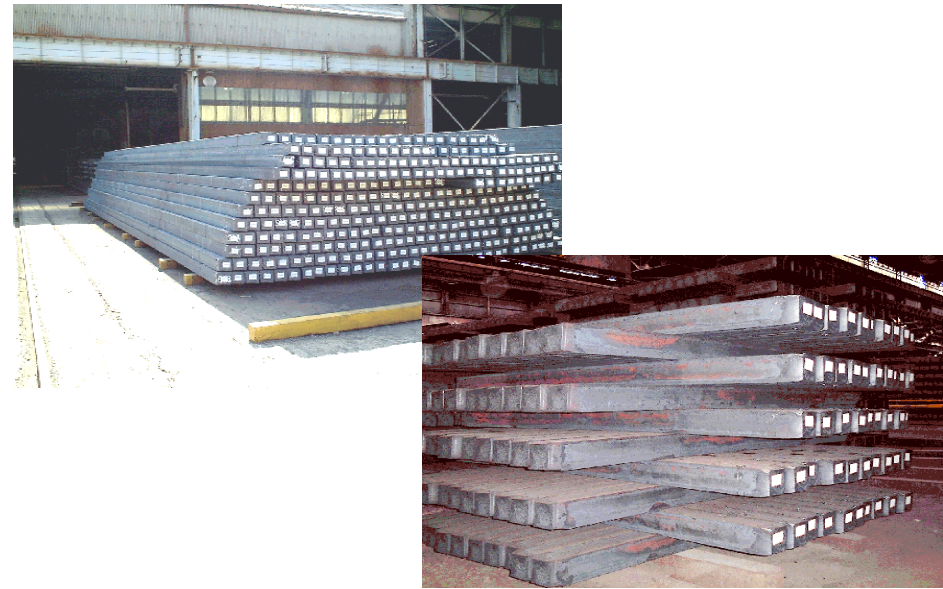
機械部門

製品サービス事業



堅調

製鋼品



出荷は堅調

機械部門

前期比：17億円減

連結売上高 716億円

前期比：9億円減

連結営業利益 36億円

エネルギー・環境部門

【主要事業内容】

石炭の輸入・販売

コールセンター（石炭中継基地）の運営

電力卸供給事業（IPP）を含む電力供給事業

エネルギー・環境部門

石炭事業



【沖の山コールセンター】（石炭中継基地）

販売数量

コールセンターでの
預り炭取扱数量



ともに前年度を下回る

エネルギー・環境部門

電力事業



【216MW IPP発電所】



自家発電所の定期
修理の影響を受け
る

エネルギー・環境部門

前期比：92億円減

連結売上高 597 億円

前期比：10億円減

連結営業利益 28 億円

その他部門

前期比：42億円減

連結売上高 125億円

前期比：3億円減

連結営業利益 7億円

資金調達状況

- ❖ 自己資金
- ❖ 金融機関からの借入金
- ❖ 第12回無担保社債
(100億円、2016年12月)

当期末 連結有利子負債残高

前期末比 62億円減

2,104億円

設備投資等の状況

- ◆ 生産設備の新增設
- ◆ 維持更改
- ◆ 省力化・合理化など

総額：440億円

当期に完成した主要設備

- 大阪研究開発センター新設
(化学部門 / 堺工場敷地内)
- セパレータ製造設備再構築
(化学部門 / 宇部ケミカル工場)

当期に建設中の主要設備

- シクロヘキサノン製造設備
(化学部門 / 宇部ケミカル工場)
- 大粒硫安増産設備
(化学部門 / 宇部ケミカル工場)
- セパレータ増産設備 (2系列)
(化学部門 / 堺工場)
- ナイロン6増産設備
(化学部門 / スペイン)
- 石灰石鉱区開発工事
(建設資材部門 / 伊佐セメント工場)

連結貸借対照表

(億円)

科 目	金額	科 目	金額
(資産の部)	7,093	(負債の部)	3,989
流動資産	2,950	流動負債	2,458
固定資産	4,142	固定負債	1,531
有形固定資産	3,314	(純資産の部)	3,104
無形固定資産	54	株主資本	2,815
投資その他の資産	774	資本金	584
繰延資産	1	資本剰余金	381
		利益剰余金	1,857
		自己株式	△7
		その他の包括利益累計額	51
		新株予約権	6
		非支配株主持分	232
資産合計	7,093	負債・純資産合計	7,093

連結損益計算書

(億円)

科目	金額
売上高	6,165
売上原価	△5,006
販売費及び一般管理費	△810
営業利益	349
営業外収益	61
営業外費用	△77
経常利益	333
特別利益	25
特別損失	△29
税金等調整前当期純利益	329
法人税、住民税及び事業税等	△84
非支配株主に帰属する当期純利益	△4
親会社株主に帰属する当期純利益	241

決算後に生じた重要な後発事象 ①

【株式交換による 連結子会社の完全子会社化】 (宇部興産海運(株)、萩森興産(株))

- 2017年5月11日開催の取締役会で株式交換による両社完全子会社化を決議、株式交換契約を締結
 - ・宇部興産海運(株)株式 1株 = 当社普通株式 2.4株
 - ・萩森興産(株)株式 1株 = 当社普通株式 4.0株
- 目的：事業環境の変化に機動的かつ柔軟に対応しグループ内の経営資源を活用した事業の持続的成長と企業価値の向上

決算後に生じた重要な後発事象 ②

【自己株式の取得】

- 目的：資本効率の向上および経営環境に応じた機動的な資本政策を遂行するため
- 取得し得る株式総数：2,800万株
- 取得価額総額：50億円

※宇部興産海運(株)および萩森興産(株)との株式交換において、両社株主への交付株式として一部を利用予定

決算後に生じた重要な後発事象 ③

【第13回、第14回無担保社債発行】

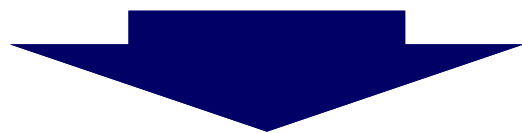
	第13回無担保社債	第14回無担保社債
払込期日	2017年 5月25日	2017年 5月25日
発行総額	100億円	100億円
発行利率	0.150%	0.375%
償還日	2022年 5月25日	2027年 5月25日

今後の経済情勢

国内景気は緩やかな回復基調が続く

為替や原燃料価格の先行き

米国・欧州での政治・経済・金融政策の動向



不透明感の強い状況が続くことが見込まれる

対処すべき課題

10年後のありたい姿
「顧客に価値を創出し続ける企業」

2016年度からの3ヶ年の中期経営計画
「Change & Challenge 2018」
を始動

Change & Challenge 2018 ～ 基本方針

1. 持続的成長を可能にする経営基盤の強化

- ・強い利益率意識、コストダウン徹底、既存製品収益力向上
- ・連結キャッシュフロー重視、投資成果の確実な刈り取り
- ・海外拠点拡充と国内外グループ会社の連携深化
グローバルな事業環境変化にスピーディに対応
- ・化学部門の復活、更なる成長
(営業利益200億円レベルまで回復、次の成長ステージへの出発点に立つ)

2. 資源・エネルギー・地球環境問題への対応と貢献

- ・温室効果ガス削減
⇒ 2021年度目標：2005年度比 15%削減
- ・環境負荷低減に貢献する技術・製品の創出・拡大

Change & Challenge 2018

～ 主要項目 数値計画の進捗

- 2017年度：原燃料価格は上昇、拡販や売価是正により増収増益
各事業の更なる収益力、合理化・コストダウン、諸施策を着実に実行

項目	単位	'16年度	'17年度	'18年度
売上高	億円	6,165	7,000	7,500
営業利益	億円	349	400	500
経常利益	億円	333	380	490
親会社株主に帰属する 当期純利益	億円	241	245	290
【経営指標】				
営業利益率 (ROS)	%	5.7	5.7	6.5以上
自己資本利益率 (ROE)	%	8.7	8.3	9.0以上
1株当たり配当金	円	6	* 6	

* 株式併合後は1株当たり60円の予定

Change & Challenge 2018

～ 事業別 売上高・営業利益の進捗

- 事業環境が厳しさを増す建設資材での対策強化、化学を始め他部門での更なる収益力の向上を図る (単位：億円)

事業	売上高			営業利益		
	'16年度	'17年度	差異	'16年度	'17年度	差異
化学	2,583	3,100	517	96	180	84
医薬	109	100	△9	24	20	△4
建設資材	2,272	2,300	28	162	130	△32
機械	716	900	184	36	50	14
エネルギー・環境	597	700	103	28	25	△3
その他・部門間調整	△114	△100	14	0	△5	△5
計	6,165	7,000	835	349	400	51

Change & Challenge 2018

～ 化学、医薬事業の戦略

【化学】 完全復活と成長ドライバーの顕在化

- 積極拡大事業(ナイロン、合成ゴム、セパレータ、高機能コーティング)
⇒ 重点的な資源投入により利益拡大を牽引
 - 基盤事業(ラクタム・工業薬品、ファインケミカル、セラミックス、分離膜)
⇒ コストダウンや顧客要求に合わせた製品展開で利益確保
 - 再生・再構築事業 (ポリイミド、電解液)
⇒ 2016年度黒字化達成。利益体質を磐石にし、再度成長路線へ
- ⇒ 200億円の達成に向け、設備投資に対する成果刈取り、製・販・技一体型組織で復活のスピードアップ

- ### 【医薬】
- 自社医薬の研究開発パイプラインの充実
 - コストダウンと顧客要求に応じた体制の確立

Change & Challenge 2018

～ 建設資材事業の戦略

需要：セメント国内需要・輸出市況は中計策定時より悪化

コスト：石炭価格は、2016年度下期より急上昇

⇒ 将来の目標・到着地点を再確認し、事業環境の変化に迅速に対応

■ 基盤事業の収益力維持と強化

- セメント・生コン：コスト削減、生産合理化、廃棄物利用拡大
- 石灰石・宇部マテ：石灰石資源確保、生産合理化
- グループ会社との連携強化：資源事業、建材事業

■ 成長戦略の拡充と伸長

- 事業エリアを拡大：東南アジア・オセアニアへの事業展開
- 事業領域を拡大：環境資材（水質・土壌・大気）で事業展開

Change & Challenge 2018

～ 機械、エネルギー・環境事業の戦略

【機械】 製品の競争力強化と海外サービス事業の拡大

● 成形機事業

- ①ダイカストマシン：コストダウン、車の軽量化に対応した開発・拡販
- ②射出成形機：三菱重工業(株) 射出成形機事業との統合効果創出

● 産機事業

電力向け大型運炭設備のコストダウン

● 機械サービス事業

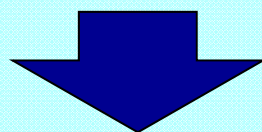
- ①射出成形機統合による海外サービス拠点再編、サービス活動強化
- ②生産性・機能改善メニュー、スペア部品在庫拡充でサポート力強化

【エネルギー・環境】

- 競争力ある石炭・電力のグループ内安定供給
- 安定的収益の継続

対処すべき課題

公正な企業活動、社会的責任を果たすための活動の推進



経営理念である「共存同栄」の精神の下、社会との共生を目指し、株主や資本市場、顧客、取引先、従業員、地域社会等、全てのステークホルダーからの信認を深める